

コミュニケーションの手段としての国語（日本語）の勉強方法を考える

－国語の勉強を通して知性をみがこう－

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

①日本人にとり国語という科目ほど、学んで役に立ち、又、奥深く、興味のつきない科目はありません。そこで今日はどのように国語という科目に取り組んでいったらよいかを考えます。

②学校を卒業した方にとっても、「日本人にとっての母国語である国語を勉強し続けること」は、日本人としての知性を磨き、人生を豊かにすることに直結しますので、一生を通じてどのように国語を勉強し続けたらよいか、今日はご一緒に考えましょう。

2. コミュニケーションの手段として国語を学ぶと同時に、国語を学ぶことを通して知性を磨こう。

①「何のために外国語を学ぶか」といえば、「コミュニケーションの手段」のために学ぶものだと私は思います。国語、つまり日本語を学ぶ目的も基本的にはコミュニケーションの手段のためであると私は思います。つまり、コミュニケーションの手段として「聴く力」「読む力」「話す力」「書く力」を身に付けることが国語を学ぶ目的と言えます。これに加えて、国語を使って物事を「考える力」、最終的には「知性を磨く力」を身に付けることも不可欠であり、これから迎える「知識社会」では大切かと思います。

では、どのようにそれらの「力」を身に付けたらよいのでしょうか。

②第1の「聴く力」を身に付けるためには、相手の話すことを、もしできれば口元を見ながら最後までじっくりがまん強く聴くことが大切です。もし、できれば相手から聞き取ったことを、口の中でモゴモゴ言ってみる事です。かげのように相手が言ったことを追いかけるという意味で「シャドウイング」という人もいます。1対1での会話でしたら「あなたは……というようにお考えなのですね」と、相手の言ったり、考えていることを表現したままに繰り返して確認する。異文化教育方法論で使う「エポケー」のようなことをやるとよい聴き取りの勉強になります。

③第2の「読む力」を身に付けるには、学校の教科書に載っているような文章や新聞のコラム欄、現代の古典と言われるような小説やエッセイなどの良い文章を、まずは息を整えてゆっくりと大きな声で読むことが大切です。良い文章ほど「音読」に耐えられます。読んだ内容を声を出さず読むことも素晴らしいですが、新聞を読むのに口をモゴモゴさせながら読む方をよく見かけます。これも素晴らしいことだと思います。

目の不自由な方は「点字」や「テープ」、「CD」で読書をなさっておられます。素晴らしいことだと思います。じっくり腰を落ち着けて、深く深く考えながら読書をするのが、人生を豊かにして知性を磨くことにもつながります。

④「書く力」を身に付けるには、「よく聴き」「よく読み」いろいろなことを知ってから自分の頭を使って「よく考える」ことが大切です。カラッポの頭の中からは何も出てきませんので、「書いたり」この次に出てくる「話したり」する前に、「よく聴き」「よく読み」いろいろなことをよく知ってから自分の頭で考え、考えたことを「書く」こと、「話す」ことが大切です。

もちろん、文字つまり平仮名や片仮名、漢字を正確に書くこと、相手にわかりやすい文章で書くことは大事です。そのための練習も必要です。ただ、一番大切なのは「書く内容」ですので、書く前に自分の頭でよく考えること、自分の頭で考えるためには、よく人の話を聴き、良い文章をたくさんじっくり読み込むことが大切です。

⑤「話す力」を身に付けることも口を正確に開け、わかりやすい発声を心掛けることも大事ですが、もっと大事なのは話す内容です。「書く」と同じように、よく聴き、よく読み、たくさん知ってから自分の頭でよく考え、その結果を「話す」ことが大切かと思います。

3. おわりに

このような意味で、質の高いラジオ番組やTV番組を視聴すること、できれば2紙以上の新聞を毎日ていねいに読むこと、月に何冊か質の高い雑誌を読むこと、自分の好きなジャンルの読書をする、月に何回かは質の高い勉強グループに入り、いろいろな話を聴くこと、時々はお友だちと会話を楽しむこと、エッセイ風に日記を書くこと、自分の考え、意見を述べるときには、ゆっくりと簡潔に静かに述べることなどは国語の勉強の上でも又、人生を豊かにし、皆さんの知性を磨く上でも素晴らしいことであると思います。

コミュニケーションの手段としての国語の勉強を通じて人生を豊かにし、知性を磨くことに、皆様も意識的に少しずつでも是非チャレンジしてみてください。

以上